

## 船舶事故調査報告書

平成25年7月4日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵男（部会長）

委員 庄司 邦昭

委員 根本 美奈

事故種類	火災
発生日時	平成24年8月7日 04時10分ごろ
発生場所	岩手県久慈市久慈港 久慈港諏訪下防波堤灯台から真方位270° 115m付近 (概位 北緯40° 11.4′ 東経141° 48.1′)
事故調査の経過	平成24年8月7日、本事故の調査を担当する主管調査官（仙台事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第三十八 <sup>りょううん</sup> 漁運丸、4.9トン AM3-50353（漁船登録番号）、個人所有 11.90m (Lr) × 3.06m × 1.02m、FRP ディーゼル機関、423kW（動力漁船登録票による）、平成4年4月26日
乗組員等に関する情報	船長 男性 51歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成9年6月6日 免許証交付日 平成24年1月19日 (平成29年6月5日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	全損
事故の経過	本船は、船長及び甲板員が乗り組み、船長が、遠隔操舵装置のリモコンで操舵を行い、久慈港諏訪下防波堤の南西側水域を約3～4ノットの対地速力で南東進中、平成24年8月7日04時10分ごろ、機関室の船尾側にある船員室で食事をとっていた甲板員から、焦げた臭いがして機関室の右舷側出入口扉から煙が出ている旨の報告を受け、機関を中立とし、機関室に急行して同出入口の引き戸を開けて機関室内をのぞき込んだところ、機関室右舷側から出ている煙及び炎を認めた。 船長は、散水ポンプを用いて消火作業を行ったが、火炎が拡大したので消火不能と思い、操舵室に戻って無線で僚船に救助を依頼した。 船長及び甲板員は、船尾部へ避難したのち、本船の後方を航行していた僚船に救助された。

	<p>本船は、半水没状態となって鎮火後、僚船で久慈港内の上架施設付近岸壁までえい航されたが、沈没し、その後、起重機船で陸揚げされた。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 西、風力 1 海象：海上 平穏 日出時刻：04時36分</p>
その他の事項	<p>本船は、船体中央付近に操舵室が、操舵室の下側に機関室が、操舵室の船尾側に船員室がそれぞれあり、また、船員室の右舷側前壁に機関室への出入口の戸が、船員室の後壁に船員室への出入口の戸がそれぞれあった。</p> <p>船長は、主機を始動する前、エンジンオイルの量を確認するために機関室に入ったが、異常はなかった。</p> <p>船長は、主機を始動した際、操舵室外から焦げた臭いがするのを感じ、機関室の出入口の戸から同室内をのぞき込んだが、異常はなかった。港内の他の場所から臭っていると思って出航した。</p> <p>本船は、機関室の右舷側後壁に自動拡散型消火器が設置されていたが、船長が消火作業を行っていたとき、同消火器は作動しなかった。</p> <p>本船は、機関室内の主機関後方の両舷側にバッテリーが各2個設置されており、全て約3～4年前に交換した。</p> <p>機関室は、右舷側に設置されたバッテリー付近の配線の焼損が激しかったが、船長は、平成15～16年ごろに主機を換装した際に同配線を交換してから同配線を交換したことがなかった。</p> <p>本船は、操舵室の左舷後部の壁に配電盤が設置されており、本事故後、泥まみれの状態で陸揚げされた配電盤のブレーカーのつまみが下がっていた。</p> <p>本船の燃料タンクの容量は1,200ℓであり、満杯であった。</p> <p>本船は、持ち運び式の粉末消火器がなかった。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>不明 あり なし</p> <p>本船は、久慈港内を南東進中、機関室の右舷側に設置されたバッテリー付近の電気配線の被覆材が経年劣化して短絡したことから、発生した電気スパークで被覆材が発火して付近の可燃物へ延焼した可能性があると考えられるが、焼損が激しくその状況を明らかにすることはできなかった。</p> <p>配電盤のブレーカーのつまみが下がっていたことについては、配電盤が泥まみれの状態で陸揚げされたことから、つまみが下がった経緯を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が久慈港内を南東進中、機関室の右舷側に設</p>

	置されたバッテリー付近の電気配線の被覆材が経年劣化して短絡したため、被覆材が発火して付近の可燃物へ延焼したことにより発生した可能性があると考えられる。
<b>参考</b>	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 出航前に異臭などの異常を感じた際は、船内を入念に点検すること。</li><li>・ 機関室に火災探知器を設置することが望ましい。</li><li>・ 持ち運び式の粉末消火器を備えることが望ましい。</li></ul>